



人が原動力

PREXグローバルネットワーク



CONTENTS

P2-5 【特集】PREX創立35周年記念事業「PREXグローバル・ネットワーク:PGNフォーラム」

P6 第19回「上本町SDGs大学」:みんなで取り組む!地球温暖化時代の家庭菜園の始め方

P7 PREX OBの声「PREXでの経験を通じ、視野とネットワークが広がりました」

P8 NEWS & TOPICS

「点」を「線」に、



(有)伊藤歯車製作所へ訪問の様子

研修参加者と、研修終了後どのように関係を維持していくか、それがPREXの長年の課題でもありました。

そこでPREXは「PGN Team」を結成し、季節ごとの挨拶発信、研修でご指導いただいた先生方や関係の方々からのビデオメッセージの配信、オンラインでの気軽なミーティングなど小さな活動を地道ながらも長年にわたり行ってきました。これらの活動の中で、母国での様々な状況を聞くたびに、誰しもそれぞれに人生の背景があり、様々な活動に取り組み、仕事に対し、人に対し多様な思いを持っていることが見えるようになってきました。

研修中はその方のパーソナルなことや日々考えていることなどについて、ゆっくり話す時間はほとんど持てないのですが、PGN Teamが実施した「PGNカフェ」での雑談や「この人の話を伝えたい」と思えるような方へのインタビューなどを通じ、こんなに真摯に人や仕事のことを考え活動している方がいる、ということを感じ発信したいと実感。PGNフォーラムに、「元研修員」という立場ではなく、その国のその事例を紹介する「パネリスト」という位置づけで4名の方を招きました。

日本滞在中、フォーラムを山場としながら大阪・関西万博の視察、また南大阪にある会社2社を訪問し、企業経営について経営者の方と意見交換をすることができ、短い滞在ではありましたが新しい体験を満喫いただいたように思います。今回のイベントを通じ、やはり人と人のつながりはその人を単なる情報源として考えるのではなく、お互いの信頼関係があってこそ意味のある交流ができるということを強く実感することができました。

これからも、Zoomなどによるオンラインでの小規模なミーティングの開催、定期的な情報発信、継続した交流といった小さな活動を絶えることなく続け、日本と海外だけでなく、海外と海外、PGNメンバーとPGNメンバーをつなげていけるようなプラットフォームを作るべくこれからも活動を継続していきたいと思えます。(国際交流部 関野)

今後のPGN担当者の目標

関野: 定期的に活動や情報発信をすることで、PREXのことを覚えていてくれる人がもっと増えること。

狭間: 継続的に続けて「つながり直し」を強化し、新たなプロジェクトやフォーラム等につなげたい。PGNメンバーは「PREXの財産」ということが名実ともにわかるような状態になればよい。将来的には過去の研修員から研修依頼や共催のフォーラム、プロジェクト等実施できるのが理想。

黒木: 帰国後に少しでも多くの研修員とつながりを保てるような活動ができれば良い。



(株)小泉製作所へ訪問の様子

「線」を「場」に。



話に熱がこもるグルミラさん

「研修」→「PGNカフェ」→「PGNフォーラム」でサステナブルにつながり、 大阪・関西万博への視察→関西企業2社の工場視察→フォーラムへの参加。

このプログラムで一番わくわくしたのは、大阪・関西万博2025への参加でした。様々なパビリオンのスケールにも驚きましたし、20万人以上の方が訪れるビジターの多さにも目を見張るものがありました。とても大きなイベントであるにもかかわらず、私たちは一番興味深いパビリオンに行くことができ、また、自分たちの国のパビリオンに行くこともできました。こんなに素晴らしい機会を与えてくれたPREXの皆様には感謝の一言です。

また大阪・関西万博以外にも興味深かったのは、小泉製作所、そして伊東歯車製作所という2つの企業に訪問できたことです。この二つの会社はタイプが違っており、また製造しているものも異なっています。社風や、その他の経験も違っているように思いました。しかし、2社とも私たちグループを温かく迎え入れ、ご自分たちの経験をお話しいただきました。また、とても正直に自分たちがぶち当たってきた、そして克服してきたチャレンジについても共有いただきました。これらのチャレンジを乗り越えることで、会社はより一層強くなることができたと思います。この時間を通じ、私たちは彼らが発展してきた道りを感じることができ、また、実際の生産現場に入らせていただくことでそこで働いておられる方の来客に対する丁寧な対応も感じることができました。この訪問は心の琴線に触れるもので、とても心温まる思い出として残っています。

最後の締めとして、私たちはPREXの職員の方全員との会合を持つことができました。このおかげで、多くのPREX職員の方と会うこともできましたし、とてもリラックスした、また親しい感じで交流することができました。この集まりの中で私は時々、母国の自分の親しい友人や同僚たちと話しているような感覚に陥りました。お互いのことをよく理解しあい、笑いあい、色々な話をし、そして会話を楽しんでいました。この温かいつながりをこれからも持ち続けたいと思います。PREXの皆さんの親切なお気持ちは私の中にずっと残ることでしょう。(カザフスタン グルミラ氏)

★ PGNフォーラム 開催日時・会場

日時：2025年10月1日（水）13時30分～17時 会場：グランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）

★プログラム・登壇者

1. 基調講演：山本 尚史 氏（拓殖大学 政経学部 経済学科 教授）
「2050年に向けた4つのシナリオ～あなたならどれを選びますか？」
2. 分科会1 テーマ：「地域社会における共働 ー自立・自律型の地域活性化とは」
・日本側パネリスト 山本 尚史 氏（拓殖大学 政経学部 経済学科 教授）
・海外パネリスト（PGNメンバー）アルフレッド氏【セントルシア】 フィリップ氏【フィリピン】
3. 分科会2 テーマ：「グローバル経済と地域経済の共存 ー企業のよりよい成長を目指してー」
・日本側パネリスト 平井 拓己 氏（武庫川女子大学 社会情報学部 社会情報学科 准教授）
・海外パネリスト（PGNメンバー）グルミラ氏【カザフスタン】 ヌファリ氏【セネガル】

★参加者 会場：43名、オンライン：14名



山本 尚史 氏



平井 拓己 氏

元研修員の熱き胸の内。



アルフレッド氏(セントルシア)

一番頭に残っているのは自分がプレゼンテーションをさせていただいた時間です。日本の人に対して、オンラインや対面で話をさせてもらうのはとても名誉なことだと感じました。

自分の母国であるセントルシアの持続可能な観光について情報を共有すること、また、違う国・文化を持つ人々から知見を得ることは非常に貴重な機会だと思っています。ネットワークを広げるいい機会だとも思いました。

PREXには、これからも世界中の研修を受けた人達をつなげていってほしいです。

フィリップ氏(フィリピン)

印象的だったのは、大阪・関西万博で未来の健康や環境がどうなるかについて、パビリオンでの展示を見ることができたこと、そして訪問先の企業2社でオープンファクトリーを体験できたことです。

また山本先生(拓殖大学)の基調講演では、「未来がどう変化するものか」を学ぶことができました。

パネリストとして参加を決めた理由は、フィリピンのマーケットや共同製造に関心をもってくれる関西の中小企業とのつながりを探しているためです。フォーラムでは自身が携わっているNGOの仕事をサポートしたいという方々に出会えました。加えてフィリピンと深いつながりを持ち、過去の水害時に支援の手を差し伸べていただいた方々にもお会いすることができました。

PREXに期待していることは、フォーラムのフォローアップを開催いただき、未来の社会、環境、気候変動など世界共通の課題に対して意見交換や今までの経験がシェアできる機会を作っていただきたいです。

グルミラ氏(カザフスタン)

私は過去にPREXが実施した研修に参加したことがあり、その研修の場で有益な知識を得、また貴重な体験をしました。母国において多くの人々、企業の人とマネジメントに対する日本式の方法について情報を分かち合いました。自分にとって一番刺激になったテーマは日本式マネジメントと、品質管理でした。だからこそ、このフォーラムに参加することは私にとって意味のある事でした。プログラムに参加することで、実際に企業がどのように動き、生産性の向上を図っているのかを見ることができるからです。

PREXは毎年、同窓会を開いてくれ、その場で興味深い経験を持つスピーカーの講演を聞くことができます。これらスピーカーの方は、長い間日本とパートナーシップを構築し、日本でビジネスを続け、日本に長く住み、日本文化に慣れ親しんだ方でした。彼らの話を聞くことはとても興味深く、ディスカッションの場を楽しんでいました。この「PREX同窓会」というのは、文化的、教育的な交流の場であり、そこに参加できることは嬉しいことです。

忘れがたい共有と交流。



分科会で参加者と語り合うヌファリ氏

ヌファリ氏(セネガル)

私は大臣付き主席技術顧問として、国家的規模の経済・社会的課題解決のため地域的・国際的貿易協定や各種手続き策定に取り組んできました。後にコロナの発生により、国民、国家は、自分自身の創造性、自主的な取り組み、国内資源と戦略なしに日常生活に生じた危機的状況を克服できないことが明らかになりました。

私が参加したコースで、日本の様々な事例に大変刺激を受けました。日本の中小企業の発展は、経済、社会福祉をより推し進め、公的部門が提供するサービスの質を向上させたと理解しています。

このようなことがあり、「PGNカフェ」にも参加し、今回フォーラムに参加することで人々と交流し、優れた取り組みを見ることができ、パートナーシップの機会を持つことができました。

今回パネリストとして、私の経験を発表することで、参加された人々に何かしらの印象を与えられたのなら嬉しいです。共有と交流ができたということが非常に忘れがたい時間となりました。



PREX グローバルフォーラムに参加いただいた企業・団体・自治体の方々の声

- ・地域経済開発のいろいろなパターンを収集しているので、各国の事例が参考になりました。
山本先生が基調講演で提示された「2050年に向けた4つのシナリオ」は非常に興味深く参考になりました。
- ・各国の中小企業を育てるためには日本の常識にとらわれず、根本の原因追及が必要であることがわかりました。
今回、得られた情報は、海外での事業経営に役立つ内容でした。
- ・フォーラムでは、基調講演と分科会に続き、参加者がグループに分かれての「グループディスカッション」の時間がありました。この「グループディスカッション」は、分科会で感じたことを言語化できる機会でも、参加されていたさまざまな業界の考え方を知ることができました。
- ・パネリストから海外の方の生の経験の話を聞けました。また「グループディスカッション」が大変良かったです。

温暖化に対応した野菜作り。



古谷講師の講義の様子

第19回上本町SDGs大学開催、 「みんなで取り組む！地球温暖化時代の家庭菜園の始め方」。

今回の「上本町SDGs大学」は、「みんなで取り組む！地球温暖化時代の家庭菜園の始め方」というタイトルで開催しました。昨今の温暖化、物価高により私達の生活に直結する野菜にも多大な影響が出ています。これからの時代は従来のように野菜を購入するだけではなく、自給する方法を学ぶことにより、食糧を作ることを通してそれに影響する地球環境を自分事として捉えられる良い題材ではないかと考え、この内容にしました。

27名の方々に参加いただき、参加された方々は皆、質問を活発に行い、展示物にも興味深々で、とても活気のある雰囲気でした。セミナーが終わり、会場を撤収する直前まで熱心に質問される方もおられました。

本イベントに関するアンケートを行ったのですが、アンケート回答者全員に「満足」という評価を頂きました。多くの好意的な感想がありましたが、主な感想としては、「温暖化により菜園の作り方も苦労がある。工夫次第で上手に進めることができるようになった」、「野菜は炭素等で構成されていて、地球環境に関わっていることが分かった」、「土を実際に触ることができてよかった」、「同じような講座を定期的に開催してほしい」というものがありました。家庭菜園は簡単に取り組めるもので、気温、土の状態等が野菜の成長に影響しており、地球環境問題を身近に感じることができます。今後の上本町SDGs大学も更に参加者の関心事項を踏まえて、SDGsやPREXの事業に関連した活動をしていきたいです。

★「上本町SDGs大学」は、上本町地域にSDGsを考え語り合う場を作りたい！と、クレオ大阪中央さんと共催で始めた事業です。SDGsを考えたい、語りたいという皆さんが参加されています。(国際交流部 荒木)

★第19回「上本町SDGs大学」概要

開催日時：2025年11月15日(土) 14:00-15:30

会場：クレオ大阪中央

タイトル：みんなで取り組む！地球温暖化時代の家庭菜園の始め方

対象者：テーマに関心のある方(小学生以上)

内容：地球環境は、年齢・性別関係なく、日常生活を送る上で「みんな」の課題です。本講座では、家庭菜園を通して、楽しくかつ身近に環境問題を考えました。土づくりの基本から温暖化に対応した野菜作りについて、事例を踏まえながら持続可能な家庭菜園を実現するための知恵を学びました。また、野菜くずを活用した堆肥を「見て」「触って」「体感」しました。



発酵度合いの異なる堆肥



堆肥を触って体感する参加者

人を幸せにできるのは「人」。



コソボの首都プリシュティナを訪問し、帰国研修員と再会した森本ご夫妻。

いつの時代も「人」が原動力。 PREXでの経験を通じ、視野とネットワークが広がりました。

私は、2010年から2014年までの4年間、NTT西日本からPREXに出向し、出向復帰後、定年退職と再雇用を経て、今は大阪の印刷会社に勤めています。

PREXでの4年間は私にとって様々なことに挑戦でき、新鮮な日々を送ることができました。当時は、円高による為替変動で債券運用益が縮小し、JICA研修受託に依存しない新たな事業開拓がテーマであり、研修の傍らテーマ別のプロジェクトにも参画しました。

私は中小企業の海外展開支援や広報のプロジェクトに参画し、JICAコラボデスク、ベトナム人向け研修、ベトナムドンナイ省との連携事業の立上げなどに関わってきましたが、今でもその事業が継続していることを大変嬉しく思います。

以前は、途上国というと貧困という言葉しかイメージできていませんでしたが、紛争という一面にも触れることで、民族や宗教がなぜ文明や繁栄と共存できないのかという疑問を抱くようになりました。出向中に、旧ユーゴスラビアのコソボ、モンテネグロ、中東のレバノンを旅行し、帰国研修員と再会し現地の方々と交流できたことも懐かしい思い出です。

今や世界は協調と対話の構図が崩れつつあり、分裂、対立がより顕著になってきましたが、国家や政治に責任を押し付けるだけではなく、人を幸せにできるのは人だということを皆が忘れてはなりません。このような情勢の中で人と人を結びつけるPREXの事業はより重要になります。PREXには事業を支える原動力となる人材への投資と協力企業・団体の拡大により注力していただきたいと思います。そうして過去の成功体験に捉われず、事業のコアコンピタンスを再評価し、これからの時代の変化に適応した新たな価値を創造してほしいと願っています。

今年1月には中東ヨルダンに旅行し、PREX出向中、世界遺産登録に向けた支援事業のプロポーザルを試みたサルトを訪問しました。現地ですら直接触れる情報はより新鮮で貴重だと痛感しました。

(株式会社坂井印刷所 総務部長 森本 正人 氏)



レバノンのベッカー高原シュトゥーラで
帰国研修員と再会

「一期一会」は「一生に一度きりの機会・出会い」を意味する言葉ですが、いい出会いは一度では終わらせたくない。PREXは帰国した研修員と一度きりの出会いにしないよう研修後もオンラインでの情報発信や「PGNカフェ」、そして今回特集した「PGNフォーラム」を開催。「一期一会」を「百期百会」にすることで深くつながり、知見や経験を共有する人材交流のプラットフォームを作りたいと考えています。今号でそんなPREXの想いが皆様に伝われば嬉しいです。お読みになられた皆様のご意見やご感想もぜひお聞かせください。お待ちしております。
E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

「あやべ市民新聞」と綾部市公式 動画チャンネルに紹介されました。



グンゼ博物館訪問の様子

2025年11月21日、あやべ市民新聞にて、立命大JDS特別プログラム 国際関係研究科 (1)-1.【地方行政を学ぶフィールドトリップ】研修で研修員が京都府の綾部市を訪問し地方行政を学んでいる様子が掲載されました。

また、同研修を綾部市公式動画チャンネル「撮れたてあやべ」でも紹介されました。ぜひご覧ください。→



インド出張コラム 南インドは北より辛い!?



2026年1月、調査案件で、インドのベンガルールに出張しました。

左写真(上):

ベンガルールで食べた夕食。美味しいけど激辛でした。

左写真(下):

世界三大炊き込みご飯のひとつ、ビリヤニ。非常に美味しかったです。

写真(下):

ベンガルールのスーパー。野菜をはじめ食材が豊富でした。

(PREX船見、中山)



(出張の詳細は次号で紹介予定です。)

PREXウェブサイト 「研修レポート」掲載中。

研修担当者による研修レポートをウェブサイトに掲載中です!研修の様子の写真も一緒に掲載していますのでぜひご覧ください。

●立命館大学大学院 国際関係研究科 博士課程(前期)ビジネスマネジメント研修

日程:2025年9月12日、9月16日~9月18日

委託元機関:学校法人立命館

参加者:立命館大学大学院
国際関係研究科 博士課程(前期)
の留学生 16名



研修レポートはこちら→



日本の伝統産業に触れた瞬間

●JICA研修 英語圏アフリカ 市場志向型農業振興 —SHEPアプローチ(行政官)(B)

日程:2025年11月27日~2025年12月12日

*研修受入期間

委託元機関:独立行政法人国際協力機構(JICA)関西センター
参加者:営農指導/普及を所掌する中央官公省庁、
または地方政府17名



研修レポートはこちら→



農家訪問

また、上記以外にもウェブサイトにも随時
研修レポートを掲載しています。→



2026年4月、事務所移転のお知らせ

現在PREXが入居している大阪国際交流センターでは、2026年6月1日~2027年3月31日の期間を全館閉鎖し、大規模工事(主として空調設備工事)が実施されます。そのためPREXは、4月20日から以下のビルに移転します。

移転時期:2026年4月20日(月)~

移転場所:大阪市中央区上町A-12 上町セイワビル8階
*地下鉄 谷町六丁目駅から徒歩5分/
大阪国際交流センターから北へ1.8km

PREX NOW第283号(2026年3月発行)
編集・発行:公益財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事:陣内 信
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6
大阪国際交流センター2階 TEL.06-6779-2850
ウェブサイト:<https://www.prex-hrd.or.jp>
E-mail:prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp
企画制作:ユナイテッド・トゥモロー